

PRESS RELEASE

令和 8 年 5 月 1 5 日
 岡 山 大 学
 岡 山 市 立 市 民 病 院

国立大学病院が主導した医薬品の共同配送を開始 ～配送の効率化と環境負荷軽減による持続可能な体制の構築～

◆発表のポイント

- ・ 6 月 1 日から、岡山大学病院と岡山市立市民病院は、複数の医薬品卸業者の配送物を、配送業者 1 社が一括して納入する共同配送を実施します。
- ・ 国立大学病院と公的病院が共同配送を実施することは、全国で初めての取り組みです。
- ・ 重複配送による車両運用や人的負担の増大、配送コストの増加といった課題を解決するとともに、環境負荷低減の観点からも、病院・卸業者・配送業者の三者が連携した共同配送体制の構築を図るものです。

- ・ 岡山大学病院と岡山市立市民病院は、6 月 1 日から医薬品共同配送事業を開始します。
- ・ これは「医療用医薬品の流通改善に向けて流通関係者が遵守すべきガイドライン」でも指摘されている医薬品の安定供給体制の課題を解決する取り組みです。
 - (1) 医薬品配送業務の効率化および安定供給
 - (2) 納品体制の標準化および受入作業の省力化
 - (3) 配送車両の台数削減による環境負荷の低減
 を目的に、両病院および卸業者が連携し、第三者の配送業者を介した医薬品の共同配送体制を構築しました。
- ・ ラッピングを施したトラックにより 1 日 2 回、複数の卸業者の物流拠点から医薬品を集荷し、配送物を両病院へ一括納入するものです。

■背景

地域に所在する複数の医療機関では、各医薬品卸業者から医薬品がそれぞれ個別に配送されており、同一地域に対して複数台の配送車両が重複して走行している状況にあります。このような重複配送は、車両運用の非効率化や人的負担の増大、配送コストの増加、さらには院内における納品時間帯の集中を引き起こしており、医薬品の安定供給体制に影響を及ぼす課題となっています。また、環境負荷低減の観点からも、配送車両の走行台数削減が求められています。

■取り組み、効果

- 共同配送は、専用車両が複数の卸拠点を巡回し、各医療機関へ医薬品を一括して配送する仕組みです。これにより、配送回数を約 88%削減し、物流の効率化と CO₂排出量の削減を同時に実

PRESS RELEASE

現します。

- 本取り組みは、「共同調達」と「共同配送」を組み合わせることにより、医薬品の安定確保を実現する新たなモデルです。単なるコスト削減にとどまらず、医薬品を欠かすことのない安定的な確保体制そのものを再設計します。

■今後の展望

岡山での実践・データを基盤として、島根大学病院が連携に加わることで、県境を越えた広域医療連携モデルへと発展します。

- 岡山で積み上げた共同調達・共同配送のノウハウ・データを両大学病院で共有
- 島根大学病院が担う広域医療の特性を見据えた将来的な配送網の構築
- 大学病院同士の連携に加え、市民病院・赤十字病院が加わった全国でも極めて稀な広域連携モデル

■配送車両

共同配送は、写真のラッピングを施したトラックで行います。5月21日14時45分から岡山大学本部棟駐車場で展示いたしますので、ご撮影いただけます。



<お問い合わせ>

岡山大学病院

病院長補佐 山下 博行

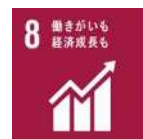
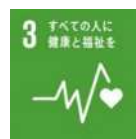
(電話番号) 086-223-7151 内線6084

(FAX) 086-235-7636

医療系事務部 管理課長 藤井 慎一

(電話番号) 086-235-6516

(FAX) 086-235-7046



岡山大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。